

(共同リリース)

2019年2月12日
日本航空株式会社
株式会社 ATOUN

空港の手荷物・貨物搭降載業務にパワードウェアを導入 協業して次世代モデルの開発も検討

～ 力の差に左右されず働ける“パワーバリアレス社会”の実現を目指します～

JALグループの国内主要空港のグランドハンドリング業務(主に手荷物・貨物搭降載作業など)を担う株式会社 JAL グランドサービス(本社:東京都大田区、代表取締役社長:中村泰寛、以下「JGS」と、着用型ロボットを提供する株式会社 ATOUN(アトウン/本社:奈良県奈良市、代表取締役社長:藤本弘道、以下「ATOUN」)は、このたび、空港グランドハンドリング業務の革新に協業して取り組みます。その一環として、作業者の身体的負荷の軽減と生産性向上を目的に、ATOUN のパワードウェア「ATOUN MODEL Y」を20着導入し、羽田空港(10着)および成田空港(10着)にて活用いたします。



現在、旅客需要の拡大により手荷物や貨物の取り扱い量が増える一方、生産年齢人口の減少などを背景とした人手不足が懸念されています。こうした状況を受けて、「年齢や性別の力の差に左右されずに働けるパワーバリアレス社会の実現」を目指してパワードウェアの開発・普及に努める ATOUN と、その経営理念に共感した JGS は、社員の身体的負荷や蓄積の軽減、生産性向上に取り組んでまいります。

このたび導入するパワードウェア「ATOUN MODEL Y」は、腰をサポートする着用型ロボットで、主にお客さまの手荷物を取り扱うソーティング場でのベルトコンベアからコンテナへの積み込み作業や、上屋(うわや)と呼ばれる貨物倉庫内での貨物取り扱い時の作業での活用を想定しています。実際に着用した作業者からの評価も高く、各地の空港への展開も検討しております。

また JGS と ATOUN は、空港グランドハンドリング業務のさらなる作業負担の軽減を目指し、実証実験の場の提供のみならず、共同開発も視野に入れて、パワーウェアの「腕のアシスト機能」開発にも取り組んでまいります。今後は、最新テクノロジーの活用領域をさらに拡大させつつ、誰もが長年にわたって安心して働くことが出来る職場づくりを目指します。



参考: 会社概要

◆株式会社 JAL グランドサービス(<http://www.jgsgroup.co.jp/>)

航空輸送のグランドハンドリング業界の草分けとして、東京(羽田)・東京(成田)・大阪(伊丹)・札幌(新千歳)・福岡の各空港において、JAL をはじめとする世界の主要航空会社の地上サービス(手荷物・貨物取扱/機内・機体外部クリーニング/航空機誘導)を担う。

◆株式会社 ATOUN(<http://atoun.co.jp/>)

パワーウェアをはじめ、働く人たちの体の負担を軽減する“着るロボット”の開発・普及に取り組むロボティクスファーム。2003 年創業。年齢や性別による力の差に左右されることなく働ける「パワーバリアレス社会」の実現を目指している。パナソニック株式会社と三井物産株式会社が出資。